



15 琵琶湖図名刺盆

一点

海野勝珉

明治二十九年(一八九六)

四分一・金・銀、象嵌

二一・三×二七・五×二・二

本作は明治二十九年(一八九六)五月に開催された日本美術協会の春季美術展覧会において出品され、「晝景眞ヲ寫出シテ特ニ雋秀ナリ」(『日本美術協会報告』第一〇一号)との評価を受けて二等賞銀牌を受賞し、宮内省買上となった作品。作者は明治時代を代表する彫金家で、同年に帝室技芸員に任命された海野勝珉(二八四四〜一九一五)である。

色味の異なる四分一(臙銀)を接ぎ合わせて空と湖面に見立て、朝日に照らされた琵琶湖に帆船が浮かぶ様子を表した脚付きの盆である。太陽とその光を受けた雲の輪郭、湖面に映る陽光は金による象嵌。空に浮かぶ雲および山にかかる雲などは、鋤彫りで表した輪郭の内側に無数の魚々子を打って表現している。帆船は、帆に銀色を呈する四分一を象嵌し、湖面に映る船の影には地よりもやや黒みがかつた色の四分一を象嵌している。最も立体的に表現された手前左の帆船は二艘が並び、漁師と思われる腰蓑を着けた人物、そして網や籠が確認できる。

島や突き出た岬、そして太陽の位置関係からすると、琵琶湖北西側の西浜あるいは海津大崎付近から竹生島の方向を臨んだ情景と推測される。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

海と山のあいだ ―近代日本の風景描写

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 86

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社アイワード
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
令和二年七月二十三日発行

©2020, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan